

第3回 吉野川流域治水協議会（上流） 議事概要

1. 日時：令和3年3月25日(木) 15:00～16:00

2. 場所：Web会議

3. 協議会構成員

本山町 町長 細川 博司
大豊町 町長 大石 雅夫
土佐町 町長 和田 守也
大川村 村長 和田 知士（代理：むらづくり推進課長 近藤 諭士）
いの町 町長 池田 牧子
高知県 危機管理部長 堀田 幸雄（代理：副部長 竹崎 幸博）
高知県 土木部長 村田 重雄（代理：副部長 浦田 敏郎）
高知県 農業振興部長 西岡 幸生（代理：副部長 杉村 充孝）
高知県 林業振興・環境部長 川村 竜哉（代理：副部長 豊永 大五）
水資源機構 池田総合管理所長 足達 謙二（代理：副所長 三好 久雄）
林野庁 嶺北森林管理署長 福吉 修二
森林整備センター 高知水源林整備事務所長 木立 英一
四国地方整備局 徳島河川国道事務所長 新宅 幸夫
四国地方整備局 吉野川ダム統合管理事務所長 福田 浩（代理：副所長 片井 良英）
四国地方整備局 四国山地砂防事務所長 星野 久史

4. オブザーバー

中国四国農政局 地方参事官 増尾 学

5. 配付資料

議事次第

- （資料1） 吉野川流域治水協議会 規約（案）
- （資料2） 吉野川水系流域治水プロジェクト（案）について
- （資料3） 今後の進め方（案）
- （参考資料） 流域治水対策の推進に係る主な支援事業

6. 議事概要

- ・流域での対策をより充実させていくため、構成員の追加、規約の改定について説明し、了解を得た。
- ・吉野川流域治水プロジェクト（案）、各構成員の取り組み状況について報告、情報の共有を図った。

《各構成員の取り組み状況》

1) 水資源機構池田総合管理所

- ・早明浦ダム再生事業では、ダムの治水機能の向上を目的に、平成 30 年度より着手。
- ・放流設備を増設する計画であり、水理模型実験を用いて流況の確認をしながら実施しているところ。

2) 高知県

- ・地蔵寺川の流下能力が低い区間を大規模事業区間として、堤防整備を実施中。
- ・あわせて、砂防事業、急傾斜地崩壊対策事業、地すべり対策事業も進めて行く。

3) 高知県、林野庁、森林整備センター

- ・山地災害防止機能や水源涵養機能等の公益的機能保持のため、持続的な森林整備・保全を引き続き実施していく。

4) 本山市

- ・急傾斜にスギ・ヒノキが植林されているが、木材価格の低迷、後継者不足等により手入れが充分いきとどいておらず、保水力が著しく減退している。
- ・間伐の実施と、山地砂防事務所や県の事業によって吉野川に注ぐ河川の防災施工をあわせて進めている。

5) 大豊町

- ・森林や農地等の荒廃による土砂災害等を軽減させるため、公有林間伐の促進や小規模ほ場整備事業を実施中。
- ・平成 30 年 7 月豪雨災害で被災を受けた立川川への支川に地滑りによる土砂や流木の撤去作業が実施できていないため、計画的に撤去及び浚渫工事に取り組んでいく。

6) 土佐町

- ・過疎高齢化の進行に伴い、水源の保全及び涵養に資する第 1 次産業の維持存続が大きな課題。
- ・十分整備されていない山林や耕作放棄が増加しており、町内だけでなく、吉野川下流域を含めた氾濫リスクが高まってきている。
- ・土佐町は 2020 年 SDGs 未来都市に選定。環境・経済・社会の自律的好循環を通じて、治水対策の実現を目指す。
- ・適正な森林整備による水源涵養機能の維持、耕作放棄地を作らないことによる水田貯留効果により治水政策に繋げる。
- ・国の制度を活用して、農業、林業の担い手を支える取り組みをしていきたい。

7) 大川村

- ・「大川村 100 年の森づくり事業」として、健全な森、森林の育成と林産業の振興を図るために 100 年後にも豊かな森が広がる森づくりを目指す長期的な取り組みを平成 27 年から実施中。
- ・森林の持つ公益的な、多面的機能を促進するために、植生や地形的な条件で、村内を 5 つのブロックに分

けながら、それぞれに応じたテーマにより森林整備を実施している。

8) いの町

- ・森林整備にあたっては林野庁との連携はもちろんのこと、町独自の取組としてこれまで植栽から主伐までのきめ細やかな支援を実施してきたところ。
- ・再造林から主伐までの森林整備について、国や県の補助金に上乗せを含め、町独自の事業展開を進めている。
- ・森林整備の面から吉野川の流域治水に取り組んでいきたい。

以上